

■ ■ 第 1 章 唐津市の根幹となるべき施策

■ 基本目標 5 歴史と文化が輝く観光のまちづくり

基本施策 1 唐津らしさが輝く交流による観光まちづくり

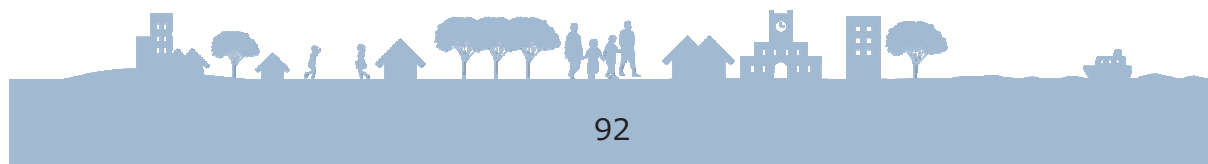
これまでの取り組みや現状

本市の観光入り込み客数は、平成 20 年の約 875.6 万人をピークとして減少傾向にあり、平成 23 年はピーク時の 1 割減の約 760.2 万人となっています。県内 10 市の中で、本市は最も多く観光客が訪れていますが、観光客の 94% は日帰り観光であり、1 人あたりの観光消費額は県内で 3 番目となっています。発地別で見ると福岡県からが最も多く全体の約 3 割を超えています。一方、九州以外からの来客も約 2 割を占めています。

アンケート調査によると、唐津は旅行先としての認知度が高く、約 46% が行ってみたいと感じているものの、情報発信が十分でなく居留意欲度も低い状況にあります。また、唐津へ来た観光客の 90% の方が「また訪れたい」と回答しています。

課題

- ・市民、観光事業者、観光関係団体が一体となり、当事者意識をもって創りあげた戦略を関係者すべてが共有し、それぞれが担うべき役割をいかに実践できるかが課題です。
- ・戦略を練り上げる PDCA サイクルの構築には、事業者自らの参加が不可欠であり、自己検証の結果をすべての事業者が市へ提供し、本市の観光現状として分析評価を図ることが必要となっています。
- ・旅行者の多様化するニーズや動向をスピーディーに把握して、有用性のあるデータとして関係者で共有することが必要となっています。
- ・本市のイメージを国内外に発信するにあたり、唐津の統一されたイメージの確立が急務であり、イメージ発信の手法についてもメディアや事業所などとの連携の強化が必要です。
- ・本市の知名度を高め、新たな交流を創出するためには、国内旅行者に止まらず、訪日旅行者の新たな海外市場の開拓を模索することが求められます。
- ・唐津らしさを継承、または育てていくためには、これまで以上に地域自らが地域への誇りを持つことが重要であり、市民や地域が期待する姿に対応する集客拠点づくりが必要となっています。



- ・訪問者がいつ来ても安心して唐津を楽しむことが出来るように、地域の担い手となる人材や地域組織などの受入体制を強化することが必要です。
- ・新たな顧客層を獲得するためにも、地域の宝と農林水産業やコスメ産業などを融合させたニューツーリズムの創出を図り、満足度アップにつなげる必要があります。

単位施策

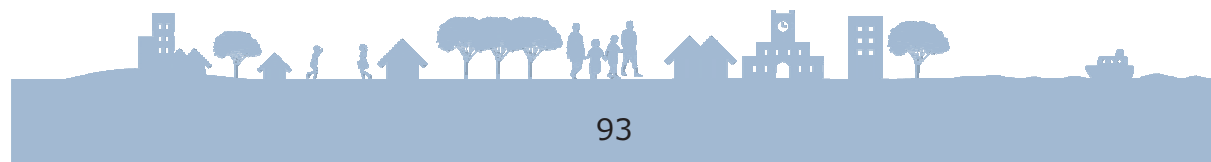
単位施策	単位施策の概要
1 オール唐津で創りあげる唐津観光振興の戦略立案と取り組み実践・評価分析等によるPDCAサイクルの確立	・市民、観光事業者、観光関係団体が一体となった普遍的「観光振興への戦略」の策定を促し、関係者が共有することで効果的な戦術を練り上げるPDCAサイクルを構築し、関係者すべてに共有させていくシステムとします。
2 唐津の認知度を高めて多くの交流を創り出す集客プロモーション	・唐津らしさが燦然と輝くイメージを国内外に発信して唐津の認知度を高めるとともに、唐津への訪問意欲をかき立てる効果的なプロモーションを実施し、宿泊施設利用者など観光による交流人口の拡大を図ります。 ・西九州自動車道関連用地の利活用により、「観光唐津」の戦略拠点づくりを推進します。
3 おもてなしの充実による受入体制の強化と唐津の宝を活かしたニューツーリズムによる観光満足度アップ	・訪問者がいつ来ても安心して唐津を楽しむことができるような受入体制の強化を図ります。 ・地域の宝と農林水産業やコスメ産業などを融合させた今までにないツーリズムを創りあげ、新たな顧客層獲得を図ります。 ・持続可能な観光ビジネスを目指した先導的取り組みを支援し、観光満足度アップを図ります。

数値目標

指標名	基準値（H25年度現在）	目標値（H31年度）
市内宿泊客数（人／年間）	440,200	572,300
市内外国人宿泊客数（人／年間）	7,600	22,800

個別計画

- ・名護屋城跡と陣跡活用実施計画
- ・唐の津風景街道推進ビジョン



第1章 唐津市の根幹となるべき施策

基本目標5 歴史と文化が輝く観光のまちづくり

基本施策2 文化活動の継承と文化交流の促進

これまでの取り組みや現状

本市では、市民の文化意識の高揚と文化振興を目的とした市民文化祭は、市民で構成される団体が参加し創り上げる文化の祭典であり、市民の自主的な文化活動の活性化、文化交流の場の創出などの重要な機会となっています。近年の参加団体は、華道・茶道・書道・園芸・写真など多岐の分野に渡っています。市民・文化団体と連携、協力体制の構築を図りながら、文化芸術拠点としての施設においては、公益的な文化芸術事業や展示等を実施し、市民に質の高い芸術文化を鑑賞する機会や歴史的な伝統文化学習の場の提供等に取り組んでいます。

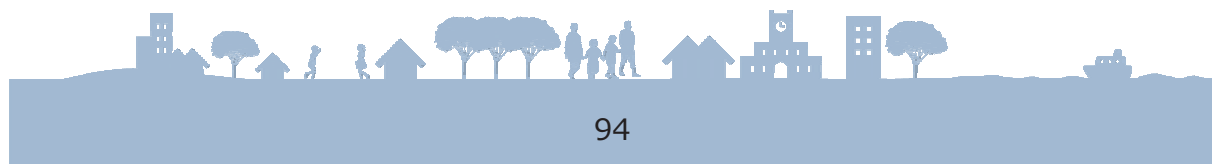
また、各観光文化施設においては建築後かなりの年数を経過しており、建物本体や機械設備の老朽化が著しく、経年劣化に伴う修繕や突発的な工事の件数が年々増加している状況です。耐震診断の結果や財政事情等を踏まえ将来を見据えた施設環境の整備が今後の重要な課題と思われます。

少子高齢化の進行により従来の地域コミュニティの崩壊などが危惧されており、市民が積極的に文化活動に参加し、文化の力で楽しさや感動、精神的な安らぎや生きる喜びを感じること、一人ひとりが生涯心豊かで健康な人生をおくれる充実した社会の構築が求められています。

課題

一人ひとりが生涯心豊かで健康な人生をおくれる充実した社会の構築のためには、次の様な課題があります。

- ・文化芸術の鑑賞機会の確保、市民参加型の文化事業企画、伝統文化に親しむ事業企画
- ・文化芸術・文化遺産のアーカイブ構築
- ・文化交流活動の拠点整備
- ・観光文化施設の老朽化に伴う将来を見据えた対策
- ・文化事業の企画運営方法の検討



- ・文化事業に関する施策を踏まえた市民文化団体との連絡協議の場の拡充
- ・高齢化による伝統文化の保存継承、後継者不足の解消
- ・唐津城天守閣の展示、施設、運営を総合的に見直し、『唐津城の魅力を最大限に引き出して地域を元気にする「まち歩き」の拠点として観光振興への貢献』を使命とする改修事業の実施。

単位施策

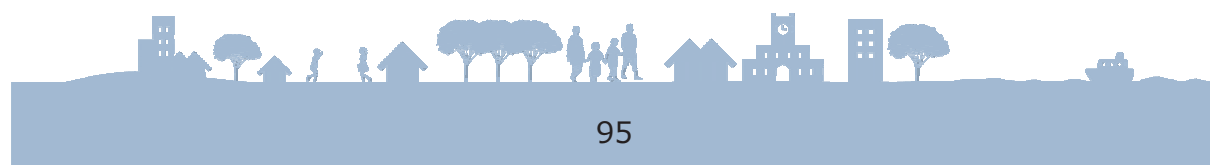
単位施策	単位施策の概要
1 文化芸術の振興	・市民による自主的な文化芸術活動を促進させるため、より効果的な事業展開を図ります。 ・多岐の分野に渡る魅力的な文化芸術イベントや企画展示会の実施を支援します。 ・有形・無形の文化財の価値や魅力を保存して次世代へ継承するアーカイブの構築を図ります。
2 文化交流活動の拠点整備	・文化交流活動の拠点施設を整備し、それぞれの施設の魅力を向上させます。 ・拠点施設と相互に連携し、集客増大を図ります。
3 文化施設の老朽化対策	・老朽化が著しい文化施設について、地理的要因や施設の利用目的を整理し、類似施設とのすみ分け等を視野に入れた長期的な対応策を検討します。
4 市民文化団体との連携と担い手育成	・文化事業の企画運営を、市民文化団体等と連携して取り組みます。 ・地域文化振興の担い手の育成等を支援します。

数値目標

指標名	基準値（H25 年度現在）	目標値（H31 年度）
観光文化施設利用者数（人）	367,018	380,000
文化芸術活動へ満足している人の割合（％）	—	70

個別計画

- ・唐の津風景街道推進ビジョン
- ・文化的資源を活用した城内まちづくり計画





第 1 章 唐津市の根幹となるべき施策

基本目標 5 歴史と文化が輝く観光のまちづくり

基本施策 3 スポーツ環境の充実とスポーツ交流の促進



これまでの取り組みや現状

本市の体育施設数は 96 施設で、平成 23 年度利用者数は 676 千人です。また、市民 1 人あたりの年間利用回数は 5.2 回となっています。

市では、5つのスポーツ大会を主催しており、その参加者数は数百人から数千人となっています。また、市外大会出場者数（奨励金対象者数）はおおむね横ばいです。

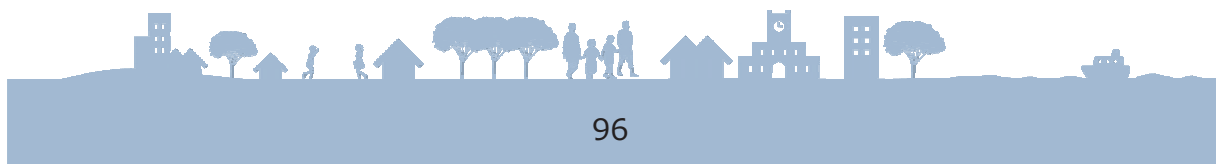
本市の社会体育費は 1,190 百万円、社会体育事業費は 86 百万円であり、これを住民 1 人あたりに換算すると、社会体育費は 9,091 円/人・年、社会体育事業費は 654 円/人・年となります。

本市の小学生の運動能力は全国並、中学生は全国以下ですが、5 年前より上昇傾向にあります。

近年、多面にわたり、スポーツの果たす役割の重要性が増している反面、体育施設の中には、経年劣化が進んでいるものや、種目によっては競技環境を満たしていないものがあり、施設や備品等の更新、充実を進めています。

課題

- ・誰もが身近に楽しめるスポーツ環境の充実や各種スポーツ大会のための良好な環境の整備が課題となっています。
- ・直面している少子高齢化社会において、地域づくりの観点からも、生涯スポーツの普及、競技スポーツの強化のほか、スポーツイベントの開催などにおいては、スポーツをする人、観る人に加え、それを支える人など、広く住民の参加をとおして、地域のスポーツ文化を育てていく必要があります。
- ・地域スポーツ文化の核となる各施設については、ユニバーサルデザイン化や長寿命化に向け、施設や備品等の充実を図る中長期的な整備計画を検討する必要があります。
- ・国内、ひいては世界で活躍できる有能なスポーツ選手の育成のためには、指導者の育成とともに、優秀な選手が地域のなかで指導できる体制づくりが課題となっています。



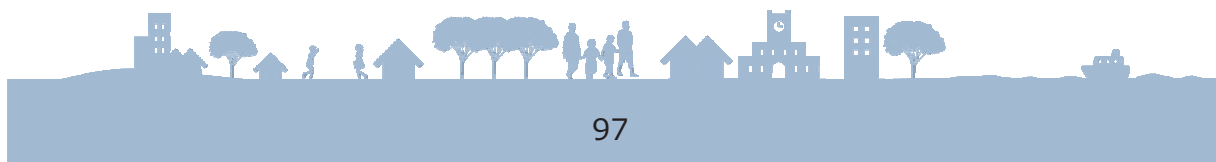
単位施策

単位施策	単位施策の概要
1 生活に密着した、身近な環境で楽しむ生涯スポーツの拠点づくり	誰もが安全、快適な環境の下で日常的にスポーツに親しみ、スポーツを支える活動に参加できる機会を確保するため、各種スポーツ大会の開催、並びに学校体育施設開放事業、運動公園整備事業、体育施設整備事業等を行います。
2 スポーツを通じた青少年の健全育成	次代を担う青少年の体力の向上と、豊かな人格の形成に資するため、専門的技術を持った指導者の育成を行うほか、県外スポーツ大会出場奨励金の交付等などの支援を行います。
3 各種競技における練習環境の整備	2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催、2023年の佐賀国体の開催に向け、施設改修等各種競技における練習環境を整備します。
4 スポーツを媒介とした観光交流の促進	- 唐津の豊かな自然環境を活かしたスポーツイベントや合宿誘致等を行います。 - 人と人、地域と地域との交流を促進することで、地域スポーツの振興及びスポーツによるまちづくりにつなげます。

数値目標

指標名	基準値（H25年度現在）	目標値（H31年度）
スポーツ合宿等誘致（件）	4	10
スポーツ合宿等誘致（泊）	735	1,500

個別計画





第1章 唐津市の根幹となるべき施策

基本目標5 歴史と文化が輝く観光のまちづくり

基本施策4 自然、歴史、文化を活かした景観等の整備



これまでの取り組みや現状

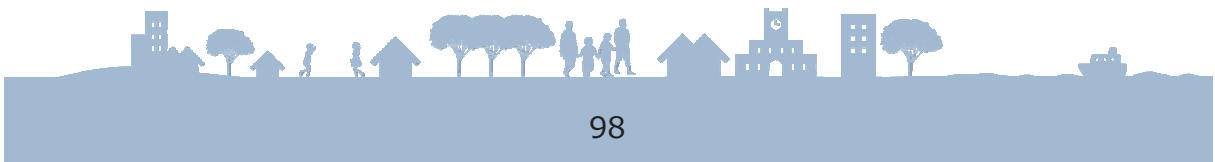
住んで楽しい、安心して生活できるまちづくりを進めていくためには、市民に身近な生活環境の向上が必要不可欠です。公園・緑地はその重要な要素であり、そのためにも身近な公園の機能充実などの現状の課題解決とともに、地域の魅力を活かした公園整備など、将来に向けた公園・緑地の整備を進めていく必要があります。

また、本市の優れた資源をつなぐ重要ルートを設定し、複合的な価値を高めると共に、市民及び来訪者の方に美しい唐津を見てもらい、市民の郷土への誇りや愛着を育んでいくことを景観まちづくりのテーマとしています。

虹の松原は、特別名勝や玄海国定公園に指定され、日本の白砂青松百選などにも選ばれている日本を代表する文化的遺産であり、本市の重要な観光資源となっています。地域の資源である「虹の松原」の再生に向けて、関係機関と地域住民、市民団体、CSO、ボランティアなどが連携・協働して、再生していくための実践的活動を示した「虹の松原再生・保全実行計画書」のもと、白砂青松の姿を取り戻すべくボランティアグループが行う活動に対する支援を行ってきました。

課題

- 公園に設置している遊具の経年劣化や破損等の事例があり、定期的な修繕メンテナンスが求められています。
- 老朽化や事故防止の為に遊具の撤去を行ったことにより、公園のうち約35%が広場のみの公園となっており、公園のあり方についての検討が必要となっています。
- 本市では、市全体を景観計画区域としていますが、その中でも新築改築等の全ての行為を届け出制とする「重点区域」として指定しているのは蕨野の棚田地域（市の面積の約0.001%）だけで、重点区域以外の地区には良好な景観に影響を及ぼす大規模建築物や派手な色彩の広告物が乱立している箇所があり、景観の保全が求められています。



単位施策

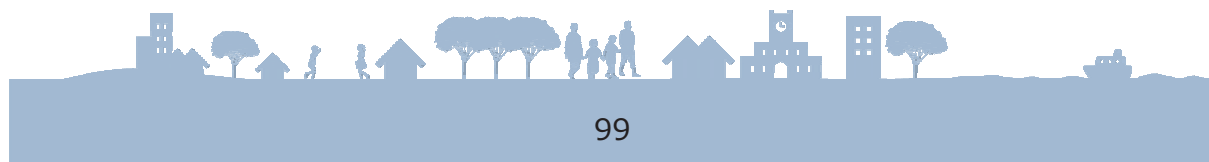
単位施策	単位施策の概要
1 都市緑化の推進及び公園施設の老朽化対策	- 地域の緑の拠点となる広域的公園や身近な公園が不足する地域への公園整備など、公園緑地の適正配置に努めます。 - 公園緑地の整備にあたっては、ユニバーサルデザインの導入を図ります。 - 既設公園については、施設の老朽化や利用者ニーズの多様化を考慮し、機能更新などの再整備とともに整理統合などの再編の検討を行います。 - 公園緑地の維持、管理及び運営について市民が参画できるような体制づくりを検討します。 海、山、川及び里地里山などの現存する緑の保全及び育成や市民による宅地内緑化など、みどり豊かな空間形成に努めます。
2 景観まちづくりの推進	- 美しくダイナミックな自然地形を守り、育て、継承するとともに、美しいまちの骨格として保全及び活用しながら、景観まちづくりを進めていきます。 - 多彩な歴史文化を活かした景観まちづくりにより、伝統的な魅力を継承しつつ、人々の暮らしや佇まいに彩りや個性を感じさせる都市空間形成を目指します。 - 虹の松原再生保全活動を継続していくことで白砂青松の松原を取り戻します。 - 景観形成を重点的に取り組んでいくエリアを「重点区域」として明確化し、唐津らしい景観づくりに向けた取り組みを進めます。 「唐津らしい景観」を後世にまで受け継いでいくため、「唐津らしい景観」の共通認識づくりと景観のルールづくりを市民協働により進めていきます。

数値目標

指標名	基準値（H25 年度現在）	目標値（H31 年度）
都市公園施設の長寿命化（施設数）	—	502
景観重点区域の指定（地区）	1	3

個別計画

- 唐津市都市計画マスタープラン
- 虹の松原再生保全実行計画
- 唐津市景観計画





第1章 唐津市の根幹となるべき施策

基本目標5 歴史と文化が輝く観光のまちづくり

基本施策5 人、物、文化の交流拠点としての港湾の整備



これまでの取り組みや現状

本市には、唐津港、星賀港、仮屋港、呼子港の4つの港湾があり、域内の離島航路の基点、海の玄関口としての役割を担っています。

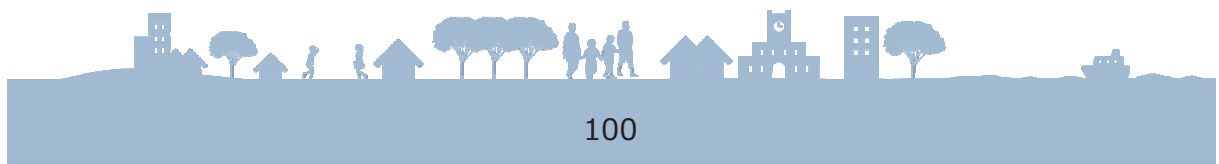
唐津港は、地域の経済基盤として、物流や水産を始めとする各種産業を支えています。施設の老朽化が進み、施設の再生と利用の再編が急がれます。一方では、一般の市民や来訪者にとっての親しみやすさに欠けており、本来、港が持っている恵まれた自然や景観を地域の資源として活かしていません。

呼子港については、平成19年4月に壱岐行きフェリーが唐津港に移転したことなどから、観光業、水産業をはじめとした呼子の地域経済に与える影響が危惧されており、既存の観光資源の活性化、新たな土地の利活用、新たな地域資源発掘等により、昔ながらの風情が感じられ、個性的で魅力ある呼子港を取り戻すことが課題となっています。

また、離島航路発着所については、周辺の交通混雑の解消や安全性の向上、また高齢化に対応したバリアフリー化、待合所の環境改善などが求められています。そして、離島人口の減少による航路利用者の減少も大きな課題です。老朽化した呼子港殿の浦地区の護岸の改修の推進とともに、星賀港、仮屋港についても老朽化する施設への対応が必要となっています。

課題

- 唐津港は港の設備が十分でないことに加え、貨物船の定期航路もなく、観光客船の寄港回数も少ないことから、人流、物流拠点としての機能の充実が求められています。
- これまでの人が近寄りがたかった物流拠点としての港から、今後は、人・物・文化の交流拠点としての港の環境整備が必要となります。
- 唐津港の活性化のためには、港の賑わいづくりが必要であり、そのための施設の整備が求められています。
- 呼子港においては、離島航路の定期船が発着の度に、荷物等の積み降ろし作業のため、発着所周辺で交通が混雑して危険な状態であり、改善が求められています。



- ・離島航路については、バリアフリー化が十分でなく、待合所などの老朽化が課題となっています。また、発着所が分散していて乗り場が分かりにくく、駐車場が遠いなどの課題があり、観光客が利用しやすい環境の整備が求められています。
- ・離島航路発着所や駐車場などの用地を確保するため、新たな埋立てが必要です。
- ・呼子港殿の浦地区の護岸等老朽化した港湾施設の改修や長寿命化が必要となっています。

単位施策

単位施策	単位施策の概要
1 東港耐震岸壁の持つ物流・観光・防災の3つの機能を発揮させる整備	・防波堤の設置及び除去、泊地や航路の浚渫、また旅客ターミナルの整備により、飛鳥Ⅱや外航クルーズ船の入港を可能にし、観光港としての機能を高めるとともに、上屋の整備による物流機能の強化、また防災機能が十分に発揮できるような整備を進めます。
2 人・物・文化の交流拠点としての港の環境整備	・交流空間としての唐津港東港地区緑地の環境整備を推進します。
3 人流、物流拠点としての利活用の促進	・唐津港の振興と活性化を図るため、貨物船及び観光客船等の唐津港への寄港誘致を行います。
4 港の賑わいづくり	・「みなとオアシスからつ」のシンボルとなる施設をはじめ、地域住民や来訪者の憩いや交流の場としての整備を図り、地域に賑わいを創出し、唐津港の振興を図ります。
5 呼子港先方地区の整備	・呼子港先方地区の新たな埋立てにより、安全で快適な離島航路発着所や駐車場などの用地を確保します。
6 老朽化した港湾施設の改修	・呼子港殿の浦地区の護岸など、老朽化した港湾施設の改修や長寿命化を図ります。

数値目標

指標名	基準値（H25 年度現在）	目標値（H31 年度）
クルーズ客船寄港回数（回）	2	12

個別計画

- ・唐津市都市計画マスタープラン

